

新基本計画(検討案)に関する葛飾区基本構想・基本計画策定委員会意見要旨

- 意見提出期間：令和2年4月30日（火）～5月18日（月）
- 意見提出方法：新基本計画（検討案）を各委員に送付し、書面にて意見を提出
- 意見提出委員：中林委員長、河合副委員長、河原委員、谷川委員、近藤委員、太田委員、堀越（克）委員、遠藤委員、古宮委員、大浦委員、浅野（幸）委員、吹本委員、根本委員、小林委員、岩田委員、谷本委員、田中委員、大山委員、中村委員、青木委員、谷茂岡委員、藤井委員、沢崎委員、武者委員、市原委員、矢部委員、染谷委員、浅野（文）委員、吉田委員、松村委員、石川委員、菊入委員、大塚委員、川名委員、長委員、秋本委員、山口委員、鏡委員、千島委員、佐々木委員、堀越（建）委員、長峰委員、矢作委員、倉持委員、大畑委員、高橋委員、千田委員、菊池委員

政策	施策	意見要旨
01	人権・多様性	令和2年、人権施策推進指針(改定版)の策定にあたり検討したが、「誰の」性自認・性的指向かを表記することが必要。□の3つ目「性自認や性的指向を理由とする」の前に、「自身の」を追記する。
		課題の対象に、若者(若年層)がない。すべての区民を対象とするために、特に子どもから大人になる世代にアプローチするのは重要と考える。
		「当事者の声を受け止め」という記載があるが、子どもから大人になる世代へのアプローチが不足している。
		人権教育を推進している都と連携し、人権・多様性への理解促進事業をより一層推進してほしい。
		女性・高齢者・外国籍の人材が活躍できる社会を目指すための事業を検討してほしい。
		「区民とは何か」と同様に、まちづくりの主役としての「多様性とは何か」を明確化すべき。また、理念として「人権・平和・尊厳」も良いのではないかと思う。
	02 非核平和	核兵器廃絶に関する施策が不足している。戦争や核に対する映画上映会や学びを毎年8～9月に設け、区民が核廃絶を考え望む機会を作るなど、葛飾区ならではの施策が必要である。
		より現実に沿った実のある教育を推進するため、施策の方向性に若い世代を中心に、人類を取り巻く様々な問題について戦争によらない解決方法を考えるといった平和教育を推進することを追記してほしい。
		戦争体験、被爆体験を直接語るができる人が少なくなっているからこそ、新たな非核平和を進める方策が必要であるため、新しい計画事業を立てるべきである。
		積極的な意味合いを持たせられるよう、政策目的「世界平和や核兵器廃絶に向けた意識が高く、平和を尊ぶまちをつくります。」の「尊ぶ」を「守る」に変更する。

政策		施策		意見要旨
01	人権・平和・多様性	03	ユニバーサルデザイン	すべての区民を対象とすべく、公共サインなどについて外国人や障害者の意見を取り込むことを追加する。
				施策の方向性に同意する。
				施策3「ユニバーサルデザイン」か、施策4「多文化共生」のどちらかの副題の中に、「SDGs」の文言を追加してほしい。
		04	多文化共生	ベトナムなど増加傾向にある対象国との友好関係を進めているか。
				災害時の外国人区民への対応に関する記述を追記する。
				インバウンド観光客に対するボランティアガイドなど、外国籍区民が活躍できる「場」の提供支援事業を検討する。
				「交流」にのみ重点が置かれているが、外国人区民の現状を踏まえた「共生」に向けて、区が率先して取り組むべきである。また、区は日本語教育について、ボランティア任せである。外国人がどんな事で困っているのか実態を把握した方がよい。

政策		施策	意見要旨
02	健康	01 健康づくり支援	課題の対象に若者世代がない。長野県等の未病対策事業などを見習い、若年層からの健康教育事業を加えるべきである。
			高齢者のフレイル対策について、健康的な食生活の普及啓発に加えて、「運動習慣」・「社会参加」を追加願いたい。
			施策の方向性「区民一人一人が健康意識を高める」具体的な方法や計画事業「区民健康づくり支援」の内容を検討すべき。
		02 心の健康	1つ目の施策の方向性について、病気手前の状態での取組を拡充してほしい。
			地域住民、民生委員等の支援協力も必要であるため、4つ目の施策の方向性「自殺未遂者に対し、医療機関、警察、消防、交通機関等と連携した支援体制」に、「地域」を追加する。
		03 生活習慣病の予防	多くの健診があり手続きの手間が懸念されるため、区民が健診・サポートを効率的に受けられる仕組みを構築してほしい。
03	医療	01 医療サービスの確保	医療費の適正化に関する記述を追記する。
			4つ目の施策の方向性について、「地域の薬剤師が医療や健康に関する相談役として」を、「地域の医師・薬剤師が医療や健康に関する相談役として」に修正する。
			施策1・2とも計画事業がない。伝染病や災害時における人員体制や対応などを検討し、外国人への医療サービスも見直す必要がある。
			「政策3 医療」については、新型コロナウイルス感染症に触れておいた方が良い。
		02 在宅医療の推進	電話及びオンライン診療に関する記述を追記する。
			施策1・2とも計画事業がない。計画的に訪問医療を推進するべきである。

政策		施策	意見要旨
04	衛生	01 感染症対策	区民が独自に対策を考えるのは無理があるので、各事業所に対して感染症予防に向けたアドバイス、対処方法を提示する必要がある。
			施設のクラスター対策が重要であるため、1つ目の施策の方向性「区民や医療機関等」に、「保育所、学校、障害者・介護施設など各団体に対しても」という内容を加える。
			幼稚園、保育園、学校における感染症予防教育、予防接種の積極的な勧奨を行う。
			計画事業に「保健センターの拡充」を望む。
			内容は重複するが、新型コロナウイルス感染症対策について、新型インフルエンザ対策と併記するべきである。
		02 食品安全の推進	食中毒の発生防止に向けて、飲食店の衛生管理を強化する。
輸入が止まった時の危機管理も安全・安心の推進であるため、食料品の生産について検討するべきである。			
施策2・3とも計画事業がない。経済的だけでなく衛生的な意味でも食品ロスを防ぐ事業を推進するべきである。			
03 環境衛生の確保	施策2・3とも計画事業がない。ペットの保護親事業の推進を求める。		
05	地域福祉・低所得者支援	01 地域福祉の推進	施策を取り巻く現状と課題「地域の課題やニーズを分析・把握し、住民が主体となって行う新たなサービスの創出や人材を育成」することは、公的に計画事業として推進するべきである。
			関係機関等の定義が不明である。民生委員以外にも新たな取り組み手を増やし、法律系や心理系などの専門スタッフの参画、協力をボランティアレベルから募るべきである。また、若者が参加しやすい仕組みを検討し、推進する。地区センターを多世代交流の場としても活用してほしい。
03 生活困窮者支援	施策を取り巻く現状と課題の「平成29年度東京都福祉保健基礎調査」の記述は、急激な経済の落ち込みが考えられる現在の状況においてデータが古いため、検討が必要である。		
	ワンストップで母子家庭等の支援を行うべきである。また、ひとり親家庭の資格習得について、区内在住の資格ホルダーにボランティアとして協力を依頼することを提案する。		

政策		施策	意見要旨	
06	高齢者支援	01 高齢者活動支援	施策を取り巻く現状と課題に「自分らしく活動したいと考える高齢者がそれぞれの生活や心身状態に応じて活動できるように」とあるが、心身状態の前に「能力」を追加願いたい。	
			リーダーのなり手がいないため、高齢者クラブが減少している。施策の方向性を「高齢者の就労や自主的な活動が持続するようにリーダー不足解消等支援します。」としてほしい。	
			計画事業をつくるべきである。ワークスかつしかは、広報イメージや実際の対応など、もっとブラッシュアップできると思う。	
		02 介護予防	施策を取り巻く現状と課題に記載されている「高齢者の身体機能の維持や認知症予防等を目的とした様々なプログラム」の提供や、「フィットネスクラブと協働し、運動のきっかけづくりを支援」している取組は、区民への広報が必要である。	
			認知症予防に向けた取組を追記する。	
			施設などのハード建設と人員配置とのバランスや、人手不足の問題があると思う。介護人材の採用、育成等について、例えば外国人の積極活用など、葛飾独自のシステム構築をすべきである。	
07	障害者支援	01 障害者自立支援	平成30年4月に障害者支援施設が整備されたため、1つ目の施策を取り巻く現状と課題を「区では就労継続支援や生活介護、自立訓練などを行う施設や、施設入所支援と他の施設障害福祉サービスを行う障害者支援施設の整備支援を行い、施設での日中活動を希望する方の活動の場や、地域で生活を支援するための拠点を確保してきました」に修正する。	
			02 障害者就労支援	施策の方向性に、公的機関への就労促進について追記する。また、「一般企業への就労」を「一般就労」に修正する。
				施策の方向性に「障害者就労支援施設に対して経営コンサルタントを派遣」とあるが、専門のプランナーやデザイナーなどを含めてアプローチすることを検討願いたい。
		03 児童発達支援	重度の障害のみを課題としているように見えるため、軽度の発達障害に関する記述を追記する。	
			関係機関とは何か不明である。また、児童発達支援をワンストップサービスの方向で進める旨の記述を追加願いたい。	

政策		施策		意見要旨
08	地域街づくり	02	駅周辺拠点の形成	<p>駅周辺再開発に併せたホテル等の新設を計画すべきである。観光客の誘致とイベントの活性化のためにも施設は重要である。</p>
				<p>子どもと一緒に安心して移動するには理科大学通りはとて狭く、また、JR金町駅の改札の狭さには仕事と育児を両立し子育てしやすい環境であるとはとても言い難く、積極的な改善に向けたアクションが急務である。</p>
		03	地域の街づくり	<p>製造業事業所の「跡地利用」については、「製造業の集積地」としての開発も視野に入れるべきである。「図表 地区計画の決定状況」について、奥戸一丁目に立地する森永乳業東京工場の移転が確実であるため、これを「今後の再開発予定地域」として掲出すべきである。</p>
-	-	-	-	<p>駅周辺拠点の形成において、既存の金町や新小岩のほかに、新宿、細田、奥戸など、過去に注目されなかった街づくりが向こう10年で候補になる。地域街づくりの対象駅については、新金貨物線旅客化政策の実現性が高まっていることを踏まえて、他の駅にも展開できるよう駅名に「等」を追加してほしい。</p>

政策	施策		意見要旨
09 防災・生活安全	01	防災街づくり	空き家問題は、防災のみならず産業や防犯など様々な分野にとって共通の課題であり、今後も増え続ける傾向であることから施策を検討する必要があるので、施策を取り巻く現状と課題で空き家問題への取組について言及すべきである。
	02	災害対策	避難所におけるペット対応に関する記述を明記すべきである。
			近年少子高齢化でペットに対する人々の感情に変化が起きている(核家族化で家族同様)。「女性や子ども、高齢者等、災害時要配慮者など」に加えて、避難所におけるペットの取り扱いについて追加すべきである。
			女性のほかに外国人、障害者、ペット連れなどに対する記述を追記すべきである。
			水害・洪水時の避難対策として、近隣の高層住宅を一時避難所として活用すべく、建物所有者と協定することが必要である。
	03	防災活動	これからの「安心して住み続けられる地域」とは、防災と福祉の連携した、住民主体でつくりだす地域だと思う。そのため、区が主体になる施策と住民が主体で取り組む施策を区分した方が良い。住民主体の活動への支援は、「政策15/施策1地域力の向上」のところに新規事業として書き込み、区の役割(ここでは主役、政策15では支援役)を明確にして、当事者意識をはっきりさせるべきである。 また消費者生活と合併させて施策名を「生活安全」とする。
			区外から参加して頂けるボランティアについての方向性を追記すべきである。防災区民組織がボランティアも含むなら、その活動について言及してもよいのではないか。防災区民組織に含まないのなら、別に追加してもよいのではないか。
			防災運動会や町会対抗防災イベント、区内避難防災脱出ゲームなど、防災訓練への若者等の参加促進につながる内容を検討すべきである。
			大災害発生時の避難場所として、水元公園が災害時にどのように活用されるのか区民として知っておきたい。水元公園の活用マニュアルなどがあれば周知してほしい。

政策		施策	意見要旨
09	防災・生活安全	04 地域安全対策	60%以上の事件が再犯者によるもので、再犯の防止等の推進に関する法律がH28年に公布され施行されている。そのため、「罪を犯した人が再び罪を犯さないよう、社会から排除・孤立させるのではなく、社会の一員として受け入れられる社会環境を構築する」ことを追記すべきである。
			自転車販売時の防犯説明義務づけなど、入口での取組を追記すべきである。
			自転車盗難対策は、大型看板等より、カメラの設置等に費用をかけ、逃げられないような監視状況をつくる方が費用対効果があると思う。
			南北の交通が不便なために、自転車にまつわる犯罪率が高い。今回新金貨物線旅客化を実現して、きちんと防犯対策やミニバスが稼働すれば劇的に下がると考えられる。自転車盗難率や自転車の酔っぱらい運転犯罪率を低下させることを重点項目として加筆すべきである。
		05 消費生活	消費者被害を未然に防止するための取組がわかりづらい。相談の窓口がどこにあって、どんな対策をしているのかを、もっと具体的に記載すべきである。
			施策の副題は、「消費者の目を身に付け」という表現を修正し「賢い消費者として正しい知識を身に付け、安心な暮らしができるようにします」、又は「正しい知識を身に付け、安心して生活(くらし)できるようにします」に修正すべきである。

政策	施策	意見要旨
10 交通	02 自転車活用の 推進	<p>「①自転車専用通行帯の確保、徹底」「②自転車交通安全のより強化」「③南北方向の鉄道網、新金線、地下鉄8.11号の建設」を追記すべきである。</p>
		<p>通行時に自動車と同じ側を通行する事を知らない人が多い。自転車を購入時に道路交通法の説明指導を行うことや事故の賠償金が高額になっているので、保険加入を進めることが必要である。自動車の安全を確保するためには、子どものみでなく、高齢者、女性への指導が重要である。</p>
		<p>啓発活動は学校教育と地域教育の連携で進めることが重要である。通学時の事故も考えると、児童生徒の自転車保険導入は学校教育として位置づけ、保護者に周知する必要がある。</p>
		<p>レンタルサイクルやシェアサイクルなど、区独自の自転車の貸出等の方法を検討すべきである。</p>
	03 公共交通の充 実	<p>バス交通の運行本数をもう少し増やすことで、利用者数を増やしていくことができる。循環バスなどを増やすべきである。</p>
		<p>新金貨物線は、旅客化と併せ観光客線としても利用すべきである。今後の観光客誘客になる新たなコンテンツであると思う。</p>
		<p>「新金貨物線の旅客化」は、葛飾区独自の、他の自治体には真似のできない「宝」である。公共交通の有効活用だけではなく、他の政策にも反映させて、オール葛飾区として、横断的に、さらに、縦断的に取り組む必要がある。 この政策単独案件に対しては特に意見はないが、他の政策に対して意見を記載している。</p>
<p>道路環境や各駅前の自転車置場も整備され、美しく感じている。交通ルールを守り年配の方から幼児までもが安心安全に生活出来ることを望んでいる。</p>		

政策		施策		意見要旨
11	公園・水辺	01	公園整備	<p>水元公園の桜つつみは葛飾区にとっては大切な公園であり、江戸時代からの歴史があり、都内ではほぼ見られなくなった貴重種(絶滅危惧種)がある。行政が多様性の指導もなく、地域のボランティアの方に任せただけのため、貴重種を無視し、毒のある植物を一面に植生し、貴重種がなくなりつつある。</p> <p>そのため、「歴史がありそこに貴重種が生息している公園はそれを尊重し残し」という文言を追記すべきである。</p>
				<p>公園の地域住民管理は「政策12環境 施策04緑と花のまちづくり」と連動するようにすべきである。</p>
				<p>公園内の清掃などを区民と協働することで、常にきれいに保つとともに、芝生を出来るだけ増やしてほしい。そのため、区民との協働による公園の清掃と花壇活動の充実を追記すべきである。</p>
		02	水辺整備	<p>堀切水辺公園の船着場について、災害、避難以外の利用方法(観光等)を検討すべきである。</p> <p>若者(学生)が自然の環境で楽しめる環境が葛飾区らしさであり、他区との差別化として理想である。健康づくりにも、若者との交流の場としても活用されるべく、アウトドアアクティビティの参画も是非とも前向きに検討してほしい。</p>

政策	施策		意見要旨
12 環境	01	自然保護	<p>歴史ある公園が管理が楽な人工的な公園になりつつあり、貴重種や歴史が脅かされてきている。「自然保護や公園整備に対して歴史や貴重種の保護のため意見を言う」を追記し、すべての部に対して意見や提言ができるようにすべきである。</p> <p>外来の動物、植物が増加しているので、外来生物を河川などに放流などさせないようにPRしてほしい。</p>
	02	生活環境保全	<p>製造事業者にとっては公害防止だけでなく「環境配慮全般」が経営上の重要事項となっている現状である、また、それは広義の「かつしかブランド」の醸成に寄与すると期待されるため、地区別に行われる「区内工場の実態調査、公害防止啓発活動」に際して、政策13施策01「産業の活性化」との連携を図る旨追加すべきである。</p>
	03	地球温暖化対策	<p>区と区民とで「～します」となるよう、語尾の「充実させます」を「充実します」に修正すべきである。</p> <p>地球温暖化対策は、省エネや再生可能エネルギー利用推進と同時に、今までの生活様式を変えていく、という社会のニーズも、将来を見越して反映させておく必要を感じた。そのため、新金貨物線旅客化政策の実現性とこれを受けた部署連携を前提として捉え、「ゼロエミッションかつしか」の記載を付け加え、さらに、「排気ガスを排出せず、無駄に化石燃料を消費しない社会を作り、環境にも人にも優しい、車のない社会の実現」も加筆すべきである。</p>
	04	緑と花のまちづくり	<p>公園の花壇だけでなく、区民に区内を花いっぱいにする(住宅や壁面などに花を飾る)活動に参加してもらい、観光客を花で歓迎する運動を進めたい。緑の減少は農地減少の影響が大きいので、JAとも協働で農家の減少を防ぐ努力をしてほしい。</p> <p>政策11公園・水辺 施策01公園整備のうちの公園の住民管理と連動するようにすべきである</p>
	05	まちの美化推進	<p>まちの美化を推進するためには、区民の意識向上が大切であり、行政主体でなく、自治町会・区民の意識向上に向けて常時PRすべきである。</p>
	—	—	<p>これまで施策として位置付けていた「環境活動の担い手育成」については、それぞれの環境施策の中で展開していくこととしたことだが、この変更は結果的に、現計画において掲出されている「環境活動団体等のネットワーク化」を排除するもので「計画の後退」ではないか。環境にまつわる諸課題は相互に関連しており、「それぞれの環境施策の中で展開」だけではなく、「全体性」を理解した政策が欠かせない。再検討すべきである。</p>

政策		施策		意見要旨
13	産業	01	産業の活性化	<p>創業に力を入れるのではなく、区民を雇用してもらえ企業誘致にシフトチェンジしてはどうか。就活の経験から、区内の企業は圧倒的に少なく、区外に出ざるを得ない状況だと感じる。子育て世代の創業のリスク、メリットの双方(収入、仕事の責任感、保育のリスク、定時で帰れる等大手企業ならではの融通が利く)を考えると、創業させることよりもまずは企業誘致が先行されるべきである。</p>
				<p>事業者にとっては「環境配慮全般」が経営上の重要事項となっている現状であり、これが広義の「かつしかブランド」の醸成に寄与すると期待されるため、既に列挙されている項目に「事業を通じた環境配慮活動が幅広く求められている」旨を新たに追加するべきである。</p>
				<p>事業者にとっては「環境配慮全般」が経営上の重要事項となっている現状であり、これが広義の「かつしかブランド」の醸成に寄与すると期待されるため、既に列挙されている項目に「水と緑の保全・活用」を織り込むべきである。</p>
				<p>新型コロナウイルス感染拡大による大打撃を少しでも軽減するため、産業界、中小企業への計画・支援を検討すべきである。</p>
				<p>葛飾区の地域資源の一つであるマンガ文化やキャラクターを育成し、葛飾区の産業の一つとするために、各種支援策、「人材育成」が望まれる。「マンガやキャラクターなどのソフト/コンテンツビジネス」の支援事業を検討すべきである。</p>
				<p>城東センター(平成3年開設)とテクノプラザの連携強化事業を検討すべきである。都の施設と区の施設の連携をより一層図ることが隣同士の建物の活性化につながると考える(中小企業振興公社城東支社、都産技研城東支社、東京信用保証協会葛飾支店との連携強化)。</p>
				<p>コロナ後の商店街の活性化には、アートや文化事業、若者参画がカギになる。コーディネーターの発掘、育成を含めて追加してほしい。</p>
				<p>インバウンド誘致には夜のレジャーが大切であり、花火大会も含めて活性化が望まれるため、ナイトタイムエコノミー支援事業を検討すべきである。</p>

政策	施策		意見要旨
13	産業	02 経営支援	<p>「事業承継事業」の各論として、廃業支援事業(M&A事業)を検討してほしい。行政が小さな事業のM&Aの「場」の提供を行う支援が望まれる。例えば商店街のソバ屋が廃業する際、若手のソバ屋開業希望者とのマッチングの場を与えれば双方にとってメリットがある。</p>
			<p>工場空き地などへの産業集積(工場団地)の整備事業を追加してほしい。賛否はあるが、衰退する葛飾ものづくりを維持し雇用を創造するために、新たな産業集積を行い、中小ものづくり企業の連携強化、産学連携の推進を図るべきである。</p>
		03 都市農地の保全	<p>緑の比率が減少することは環境の悪化や健康にも影響するものであり、住みよい葛飾区のためにも保全に力を入れてほしい。区民の健康づくりや環境保全を図る上でも都市農地は重要である。</p>
			<p>葛飾区に合った新事業創出を検討すべきである。本区の特徴を生かしたより積極的な「未来に希望の持てる明るい都市型農業」実現を希望する。町工場の技術を利用して、農業の労力軽減と技術改革を支援することや立体農業化を進めることで、潤いと安らぎの空間の確保や、災害時の避難場所の増加、小規模事業者の活性化などに貢献できると思う。</p>
		04 キャリアアップ・就労支援	<p>テクノプラザかつしかを求職活動で利用したが、圧倒的に求人数が少ない。この根本的解決は企業誘致である。</p>
			<p>計画事業では、企業誘致に力を注いでほしい。</p>
<p>区内でスキルを持った女性・高齢者・外国籍の人材開拓、登録を促進し、不足する労働力に対してプロフェッショナルな知見の活用やテレワークでの活用支援をする必要がある。そのため、女性・高齢者・外国籍の新規就労者支援事業(ダイバーシティ促進事業)を検討すべきである。</p>			

政策	施策	意見要旨
14	観光・文化 01 観光まちづくり	<p>施策に記載の通り、区内の観光資源はいずれも滞在時間の向上を課題としているように感じるが、観光資源間、特に南北地域の移動は決してスムーズとは言えない印象である。利便性の向上、個々の観光資源の波及力を高めるためにも対応が求められる。区内観光資源の面的活用、資源間の移動(手段)向上に関する課題や、南北地域の連携など、観光資源を活かすインフラ作りなどの対応策を検討する旨を追記すべきである。</p>
		<p>観光立区をめざすなら観光客が宿泊できる施設が必要である。観光客はバスで葛飾区へ来て見学の後、昼食をして他区のホテルで宿泊・宴会している。観光消費を増やすため、宿泊施設を誘致する必要がある。</p>
		<p>観光客が宿泊する施設は、区内には一つも無いので、区の考えを知りたい。</p>
		<p>観光客を呼び込む方法として、区の特徴の玩具メーカー・アニメ・物づくり体験等の複合施設の立案を官民一体で考えてはどうか。</p>
		<p>2019年に葛飾区に移り住み、HPを閲覧し初めてキャプテン翼やリカちゃんが葛飾区ゆかりのコンテンツなのだと知った。日常生活している中で目にする機会がなかったということは活用できていないのではないかと強く感じた。コンテンツを利用するならば、しっかりと葛飾区としてこうありたいという位置づけのもと利用しないと、本区の良さが目立たない。観光資源づくりにおいては、次世代へのPRに重点を置き、コンテンツを渋滞させないように醸成されることを望む。</p>
		<p>観光資源として、漫画や映画などのコンテンツだけでなく、区内企業保護の視点も含め、現在も評価の高い日本の文化であり、葛飾区が誇る「玩具」をもっと表に出すべきと思う。新金貨物線旅客化政策の実現性とこれを受けた部署連携を前提として、タカラトミー社の玩具、新金貨物線の旅客ライトレール玩具、旅客電車そのもの等を観光資源とすることを加筆すべきである。</p>
<p>今後近場の観光ニーズが高まってくることが予想されるので、ピンチの後の好機として捉え、亀有、立石、新小岩など連携する街のイメージを発信すべき。昭和、平成、令和など時代をキーワードにしてはどうか。</p>		

政策		施策	意見要旨
14	観光・文化	02 観光イベント	<p>多様な葛飾の地域資源の一つである「マンガやキャラクターなどのソフト/コンテンツビジネス」の観光ビジネス支援事業を検討してほしい。「産業資源」とともに「観光資源」としてall葛飾で取り組み、育成することが望まれる。</p>
			<p>本区ゆかりのコンテンツを生かした参加型・体験型イベントを追加すべきである。</p>
<p>区内には会場が少ないので、観光イベントだけでなく各種団体の記念事業、パーティー、結婚式、展示会なども他区のホテルで行われている。ホテルの需要が少ないとの見方もあるが、対応出来る施設が無いからであり、葛飾区の人口から見れば需要は高い。駅前再開発と併せ行政としてイベント会場として利用できる施設の誘致活動をすべきである。</p>			
<p>観光資源を活かすため、ホテルなど宿泊施設の誘致を検討すべきである。</p>			
<p>計画事業として、他区市町村や姉妹都市や友好都市との合同イベントを、人が確実に通る駅前週末ごとに開催してはどうか。各地域との合同交流を行う中で、本区がどのような強みがあるのか、どう思われているのか改めて可視化でき、相乗効果となる。そこで新規コラボ商品などの事業展開にも繋がる可能性もある。さらには産業を本区の人々にも再認識、もしくは初めてわかってもらえる機会にもなる。</p>			
		03 文化・芸術の創造	<p>スポーツと同様に、文化・芸術活動の振興実現には、相応の設備や環境が必要なため、環境整備を進めることを追加してほしい。</p>
15	地域活動	01 地域力の向上	<p>自治会の加入率は上がることが良いことなのかどうか疑問である。加入するという負担だけがかかるような取組みであるならば賛同しかねる。</p>
			<p>自治町会活動への協力・促進することで、公共交通機関が安く利用できるようにするなど、地域活動の担い手を支援すべきである。</p>
		—	<p>区民との接点として、地区センターを積極的に活用し、より多くの声を聴く努力をしてほしい。 地区センターというインフラの活用は、より多くの区民が区の主体として意識し、考え、参画する場として、まちづくりの大切な拠点となるべきである。</p>

政策	施策	意見要旨
16 子ども・家庭支援	01 母子保健	3点目の施策を取り巻く現状と課題「児童虐待の件数が増加傾向」を、「児童虐待が増加傾向」に修正する。
		「保護者」という記述について、近年、妊娠前(妊活)についての悩みや相談が多くなっていることから、表現を工夫するべきである。
		施策の方向性「ゆりかご面接の実施率100%を達成する」を「ゆりかご面接の実施率100%を目指し」に修正する。
		施策を取り巻く現状と課題の掲出順に合わせるため、施策の方向性の2点目と3点目の順番を入れ替える。
		「施策を取り巻く現状と課題」を踏まえて「施策の方向性」を記載するべきである。
		トワイライトステイとは何か、定義を明確にするべきである。
		望まない妊娠、出産が児童虐待や貧困の原因になることもあるため、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ(性と生殖の健康と権利)についても教育が必要である。
		長期間にわたる継続した家庭支援が他の課題(障害、不登校、虐待、貧困など)にもつながるため、「ゆりかご葛飾」の支援対象者、支援期間などを明示し、他の施策との関係性が分かるようにする。
		家族、夫などを含む「家庭」を単位とした支援に言及する必要があるため、「母子保健」という施策名を変えるべきである。
		02 子育て家庭への支援
子育てを園まかせにする保護者、親の責任にしてしまう保育者も少なくないため、保育の質を高める「保育関係者の研修」や「園と家庭が協力して子どもを育てる共育(ともそだて)の啓発」などを追記するべきである。		
子どもを安心して預けられる、児童が安心して過ごせるという視点から、施策2「子育て家庭への支援」、施策3「仕事と子育ての両立支援」、施策4「放課後支援」のいずれかに、保育施設や学校などにおける災害時の相談、支援体制に関する記述を追記する。		

政策	施策	意見要旨
16	子ども・家庭支援 03 仕事と家庭の両立支援	<p>幼稚園での預かり保育需要が高まっているため、私立幼稚園における幼稚園教員の確保も困難な状況であることを「施策を取り巻く現状と課題」に追加願いたい。</p>
		<p>近年の研究により、幼児期の遊びを通じて学んだことが、小学校以降の学習にもつながることが明らかになっている。そのため、保育の質の維持についても「施策を取り巻く現状と課題」に追加願いたい。</p>
		<p>幼児期に質の高い保育を受けることが、政策17「学校教育」につながるため、「仕事と子育てを両立している家庭のお子さんも、質の高い保育を受けられるように整備します」を施策の方向性に追加願いたい。</p>
		<p>保育所の整備の量的な拡大は限界に近づいており、今後、質的な整備が主眼となると思われる。そのため、保育の質を担保する人材確保を喫緊の課題として、官民が協力する体制が必要である。</p>
		<p>都では、保育園で5年働けば支払いが免除される奨学金がある。葛飾区でも保育人材の確保に向けて大胆な支援策を行うべきである。</p>
		<p>保育士の仕事がとてもハードなのに経済的に安定しない、働き続ける事が出来ないという窮状が、有効求人倍率の高さの一因であるため、長期的・安定的に働き続けるための支援も検討する旨を追記する。</p>
		<p>人付き合いが希薄になっており、事故があると地域の環境にもよくないため、ファミリー・サポート・センター事業のサポート会員は、保育士の経験者を集め、仕事として行うべきである。</p> <p>人材確保につなげるため、保育士の勤める保育園で保育士自身の子どもも預かれるようにするなど、柔軟に対応してほしい。 また、サポート会員の資格要件の緩和や、若手のサポート会員に預けたいというニーズ、長期的なサポート(週末里親や長期休み里親)への対応について検討してほしい。</p>

政策	施策	意見要旨
16	子ども・家庭支援 04 放課後支援	児童指導サポーターの高齢化への方向性として、社会人や大学生の参加促進に関する記述を追記する。
		保護者は学童保育クラブとわくわくチャレンジ広場のどちらを選ぶのか迷うと思われる。また、どちらかを選ぶ事により、子ども達を差別している様に感じるため、子ども達への放課後支援は平等に行うべきと考える。
		2点目の「現状と課題」を踏まえた「施策の方向性」を記載する。
		地域の大人が、顔見知りの子どもの見守りをするのはとてもよいと思うので、「わくわくチャレンジ広場」の運営を委託することに懸念がある。
		わくわくチャレンジ広場のプログラムの充実について、子どもたちに多くの選択肢を提示しニーズに応えるため、児童館及び地域スポーツクラブとも連携するとよい。
		学童保育クラブの学校内設置や、複数の運営主体による一学校複数の学童保育クラブの設置、学童保育クラブとわくわくチャレンジ広場の事業統合、運営体制の見直し、人材確保に取り組むことが必要である。
		学校の方針が優先され、団体が学校施設を利用できず、地域や子ども達のニーズに対応できないことが多々あるため、区の施設利用ルールの作成や、学校と各団体の調整を図る第三者機関の設置を検討してほしい。

政策	施策	意見要旨
16	05 子ども・若者支援 子ども・家庭支援	<p>母子家庭の経済格差とそれに伴う教育格差を、課題として取り上げてほしい。また、助けたい人、助けてほしい人をうまくマッチングできる仕組みを構築してほしい。</p>
		<p>「ひとり親家庭」と「母子家庭」を使い分けている意図を明確にするなど、誤解を招かない表現に工夫することが必要である。</p>
		<p>4点目の施策の方向性が「ひとり親家庭」に特化した記述となっている。</p>
		<p>子どもの貧困・教育格差について、小学校高学年からの学習塾等による学力差、ひとり親家庭が抱える食事(朝食・夕食)、NPOに対する支援、スマホやゲーム機器等から派生する犯罪などの課題があるため、当施策に限らず記載願いたい。</p>
		<p>親を対象とした、親の立場についての支援に偏っており、子どもの声を拾っていないため、「かつしか子ども応援事業」の取組のひとつとして、子どもからの相談支援にも言及すべきである。</p>

政策	施策		意見要旨
17	01	学力・体力の向上	政策目的について、日本語としてつじつまの合わない文章になっているため修正するべきである。
			「学校教育総合システム」に注釈が必要である。
			家庭学習が思うようにならない児童・生徒が自学・自習を行う環境を確保できるように、学校図書館を放課後6時まで開放してほしい。
			今後の有事に備え、一刻も早くオンライン授業ができる環境を整備する必要がある。また、通学とオンラインを柔軟に選択あるいは併用できるなどの対応が必要である。
	02	一人一人を大切に する教育の推進	「不登校児童・生徒の多様な学びを保証するための学習支援」について、具体的に実践できるよう施策・事業を工夫してほしい。
			不登校対策について、学校に特化されすぎているため学校外部との協力について記載するべきである。
			不登校には様々な理由があり、学校外部の方の意見を聞くことで解決に導くことができると考える。施策の方向性に、学校関係者だけでなく外部の方々との協力を記載してほしい。
			「速やかかつ組織的に解決する体制」を「迅速かつ組織的に解決する体制」に修正する。
	03	教育環境の整備	図表の掲載意図が不明である。他の施策のように、図表データの考察を踏まえた課題を提示するべきである。
			2点目と3点目の「施策の方向性」を統合するか、2点目の「施策を取り巻く現状と課題」を2つに分ける。

政策		施策	意見要旨
18	地域教育	01 学校・家庭・地域の連携	「良化傾向」は一般に用いられないため、別の文言に修正する。
			「豊かな教育環境を育んでいます」とあるが、「育む」は一般には人に使うため、「豊かな教育環境づくりに努めています」に修正する。
			「各地区が持つ地域特性」を「各地域の特性」に修正する。
			2点目の施策の方向性を簡潔にする。
			「部活動の活動時間における」を「部活動における」に修正する。
		02 家庭教育への支援	団体、学校、PTA、教育委員会の連携を強化する。
19	生涯学習	01 区民学習	IT化が今後ますます進展する中、ITリテラシーに対する支援がこれからの必須課題となるため、「施策を取り巻く現状と課題」にIT化に伴う高齢者など情報弱者や情報格差への対応を、「施策の方向性」に具体的な学習機会の方向性を追記する。
			施策の方向性「若者にとっても魅力的で参加しやすい学習機会」という文言が唐突に出てくるため、施策を取り巻く現状と課題でも触れておいた方がよい。
			施策の方向性について、「新たな人材の開拓に取り組みます」だけでは不十分であるため「新たな人材の開拓に取り組み、その活用を目指します」としてほしい。「社会教育リーダーの養成」についても同様である。
		02 図書サービスの充実	図書館は不登校の子どもや、不審者を発見した時の逃げ場、非常時や休校時の拠り所としても機能している。このことを踏まえ、「施策を取り巻く現状と課題」に児童・YAサービス拡充の視点を、「施策の方向性」に学校との連携強化や未就学児とその親へのサポート、非常時に子どもの拠り所となれる図書館となるための取組を検討する旨を追記してほしい。
			Wi-Fi環境整備は、図書館以外の公共施設にも必要である。誰でも、どこでもWi-Fiが利用できる環境をつくり、情報格差を生むことがないようにしてほしい。
			図書の相互貸し出しや、大学収蔵の論文や文献複写の需要に応えるため、区立図書館以外の図書館との連携について検討してほしい。
	図表「区立図書館の貸出冊数」の変化は、誤差の範囲内と受け取られかねないため、施策を取り巻く現状と課題につながる変化をよりはっきり表現している図表を用いてほしい。		

政策		施策	意見要旨
20	スポーツ	01 スポーツ活動の 推進	地域スポーツクラブの高齢化が懸念されており、広いエリアの対応は難しくなるので、身近な場所に地域スポーツクラブをつくる努力が必要である。
			現在、地域スポーツクラブは2箇所しかなく、堀切・水元まで行けない高齢者がいる。身近に地域スポーツクラブがあれば参加する区民が多いと思うので、施策の方向性には地域スポーツクラブの増設を掲げるべきである。
		02 スポーツ基盤整備	施策の方向性の「スポーツができる環境」を、施策名に合わせて「スポーツに親しむ環境」に修正する。
			区の各スポーツ施設を国際基準に準拠させる。
			「利用者の声を聴きながらバリアフリー等の障害者スポーツに配慮した改修を行います」とあるが、「区内各施設において利用者の声を聞きながらバリアフリー等の障害者スポーツに配慮した改修を行います」に修正してほしい。
		—	—

政策		施策		意見要旨
-	その他 自由意見	-	-	計画事業は、どこが主管課か明確になっている方が区民にとってわかりやすい。
		-	-	何カ所かに「計画事業なし」があり、これについては「計画事業以外のところで、今後、具体的に示す予定」とあるが、それぞれの領域で、施策の現状、課題、方向性を踏まえて、計画事業の重点項目が記述されるべきだと考える。「計画事業なし」では見た目にも良くない。
		-	-	新型コロナウイルスを踏まえた課題を構想・計画にどのように反映していくかは、今後のポイントの一つになる。 次回委員会で検討する「新基本構想(素案)」についても、今回のように、事前の送付・意見の吸い上げの機会をいただき、ある程度、事務局と各委員の間で相互認識の下地が出来た状態を作った上で、委員会を再開していただけると有難い。
		-	-	コロナの影響が落ち着いた後には、インバウンドや外国人労働者・移住者に依存する施策には無理が出てくる。同じくコロナで必要性が痛感された教育におけるICT活用の早急な推進も含めて考慮し記載願いたい。新型コロナウイルス対策に伴い当初の計画から大きく変更を余儀なくされるものが多いと思うが、基本計画を抜本的に見直すのは難しいので、追記として、今後の方向性について最新のものを入れる必要がある。
		-	-	新型コロナ対策の経験から得られた知見を基本計画に反映してほしい。
		-	-	1)政策を政策分野ごとに整理し、政策間の関連性を見せる。(例:生活分野(政策2、3、4)、社会分野(政策1、5、6、7、15)、空間・環境分野(政策8、9、10、11、12)、経済分野(政策13、14) 2)施策と政策の執行責任の明確化をしてほしい(進捗管理のためにも望ましい。ただし縦割りにはならないよう、横串を刺して施策の総合的な成果(アウトカム)を目指して推進するためには、政策が関連性を持つことが重要である。
-	-	施策はすべて通し番号とし、各施策に【連携施策:施策番号〇〇】という形で付記してはどうか(例,政策08地域街づくり 施策01計画的な土地利用 には、政策14観光・文化 施策01観光まちづくりが深いかわりがある)		

政策		施策		意見要旨
-	その他 自由意見	-	-	「政策14 観光・文化」から「観光」を「政策13 産業」に移転させ、「政策13 産業・観光」とする。観光の内容が「産業まちづくり」である。観光まちづくり、観光イベントを、商工会と観光協会の共同開催で推進する。
		-	-	文化・芸術を「政策14 文化・芸術」とし、施策「文化の保存・継承」と「芸術の育成・振興」にする。
		-	-	区民が主体に取り組むソフト面での「防災活動」は、「地域活動」に移動し「防災活動」を新設
		-	-	教育は学校と地域につながっており、生涯学習とスポーツは子どもから高齢者までつながっているため、政策17「学校教育」と政策18「地域教育」、政策19「生涯学習」と政策20「スポーツ」を統合する。
		-	-	教育は学校と地域につながっており、生涯学習とスポーツは子どもから高齢者までつながっているため、政策17「学校教育」と政策18「地域教育」、政策19「生涯学習」と政策20「スポーツ」を統合する。
		-	-	第4回の全体会以降、委員会の中止が続き、当初の策定・検討スケジュールを守る事は難しくなっているように思います。可能であれば、次回委員会開催に先立って今後の運営の方向性やスケジュールをお示しいただければ幸いです。
		-	-	新型コロナウイルス影響をある程度見定められ、対面での会議体で議論が尽くせるまで、新基本構想・新基本計画策定時期を半年程度は延期すべき。2020年度中の策定にこだわるべきでない。

政策	施策		意見要旨
<p style="text-align: center;">—</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">その他自由意見</p>	—	—	<p>この基本政策だけでなく、区は障害者・若年層等の課題の当事者に意見を聞く取り組みが抜けている。またそうした方の声を聞くためには例えば会議を平日に限定しないなど柔軟にしては。</p>
	—	—	<p>核家族化は区民から行政に対するチャネルの減少につながっている。区民に対する情報発信や形式的でない場でもっと区民から課題を拾い上げる仕組み作りに注力してほしい。</p>
	—	—	<p>区民との協働を目指しているので、ボランティア募集等に関してはホームページ、広報紙だけでなく掲示板や地域での回覧版等、利用してより多くの区民の目に触れる様な方法を検討、追加願いたい</p>
	—	—	<p>かつしか文学賞と同じように「かつしかを元気にしま賞」「かつしかを楽しくしま賞」など、まちづくりや、イベント等においてはは若者が主体となって参画しやすい企画を公募してはどうか。</p>
	—	—	<p>概ね区の方針については、良い内容となっているが、10年前の区の方針と現在の実情については、申し訳ないが大差は無いと思っている。 将来の東京都(特に23区)を考えると、やはり少子化・高齢化による区の衰退は、このままでは避けられないのではと危惧している。</p>
	—	—	<p>すでに委員会の場で発言しているが、「新基本計画」「基本構想」の名称を提示し、策定委員会で議論したい。事務局案を考えてほしい</p>